

## 通信制高等学校に進学した娘とサポートシステムを通して

### 1. 略歴

娘は、小学校入学時から教室でじっとしていない子であった。幸いなことに最初の小学校1. 2年生(横浜市公立小学校)は普通級で、4~6年生(武蔵野市公立小学校)は、転校をしました。そこは支援級で、いずれの学校でも先生方にも恵まれておおらかに過ごしました。中学(八王子公立中学校)は、現在の八王子市で、ここでの教育は感謝に堪えません。先生方のやさしいまなざしにつつまれ、学習面では、中間・学期末テストまでありました。生徒は、不登校からLDそして多少の知的な遅れまでおり、都立高校に進みその後、大学に進学した生徒、養護学校に進みそこで、リーダー的役割を果たし一般企業に進んだ生徒がいるなど多様です。中学では、このクラスだからとって、学習の機会和奪うようなことはせずに、ソーシャルスキルに加えて、個にあわせた学習への配慮をしていただき今でも感謝をしており、当時の先生とも連絡をとりあっています。その後、高校進学に直面し、ある横浜の私立高校で面接を受けましたが、自分のペースで行動しみんなに合わせる事が時間の面で苦手な娘は入学を丁重に断られました。そこで、暖かく迎えてくれた横浜市のフリースクール(1-3回生本科 4-5回生 専攻科)に通い、今年で5年目です。

### 2. アットマーク明蓬館高等学校(通信制高等学校)

#### ①入学のチャンス(TV番組、本人の強い希望、成田滋先生との出会い)

しかし、娘はどうしても高校に行きたいとの願いを持っていました。そこでの仲間が通信制や夜間の高校に通い卒業したからです。

入学のチャンスのチャンスは思いがけないところから始まりました。本科3年のある秋の日曜日の午後2時からの民放のドキュメンタリー番組で、アットマークのある生徒さんのことを取り上げていたのを見て、もしかしたら娘を受け入れてもらえるかも知れないと直感しました。すぐに、ネットで調べ入学案内の資料を送ってもらいました。

その後、カニングハム久子先生(コミュニケーション・セラピスト アットマーク・ラーニング特別顧問 NY在住)の講演のお誘いを受けて参加し、全て受け入れて下さる心からの姿勢に感動を受けました。

翌年3月、アットマーク明蓬館高等学校品川キャンパスで、一抹の不安を感じながら入学の面接を

受け、成田先生と出会いました。先生には、何事もないかのように受け入れて下さったことに感謝しています。また、名刺を頂いてさらに驚いたのは、先生の経歴と暖かいお人柄でした。何よりも、どんな考えでも真剣に耳を傾けて下さる姿勢に感銘を受けました。これは、カニングハム久子先生と共通しています。これならば、娘はやっていると思

い安心しました。

次に、実際に入学しての事柄について、具体的に述べたいと思います。

《1年次の学習から》

## ②ライブ配信授業（録画あり）の有効性

録画もあり、何度も見ることができるという点から、各教科の先生方の教材研究の跡がうかがわれます。生徒にとっては以下に述べるような利用ができて、とてもありがたいです。特に、概要を掴むことと、一度は学習をしておきたいという願いにもピタリと合っています。

### 1. 生徒や保護者の視聴

何度も見ることにより、理解が深まり、教科への興味が高まる。

### 2. 先生方への出席の感想やメールへの対応

その返事を見ることにより、学習への意欲や一緒に取り組んでいるという

仲間意識（クラス）の一員として、また、アットマーク明蓬館高等学校への帰属意識が高まる。

特に、この意義は大きい。

### 3. 教科の内容をしっかりと扱っている

通学式の高校では、一度の授業、ドリルによる自主学習、暗記の総量や短時間での処理能力により、評価を受けることにして、何度も見られること。その度に理解が深まる。一度に大量の暗記をしなくて、よいことにより、ゆったりと学習できる。

## ③ライブ配信授業（録画あり）への3つの取り組み

先生方の工夫された授業に応えるべく、生徒の方でも各自の工夫で取り組みの仕方があると思いますが、我が家では、今のところ以下のように取り組んでいます。

### 1. ライブ授業を見る（予習として）

1回目

時々、画面を静止して、ホワイトボードに書かれた内容を読む。

該当する教科書のところを確認する。（1分位）

視聴後、感想を書く。（これが出席となる）

### 2. レポートの問題を確認する。（レポートの問題をコピーしておく）

ライブ授業を見る。

2回目

レポートの問題に対する解答をする。（一時画面を静止して）

### 3. レポートの問題を確認しながら、ライブ授業を見る。 3回目

この辺りになると、先生の説明の流れが頭に入っているので、楽しみながら、授業に参加できるようになっています。

#### ④通信教育のよさと難しさ・保護者の関わり

私自身、通信教育を受けた経験から、自分のペースで遅れないように計画的に学習を進めていくことが必要であると思っています。

以下に良い点と、難しさについて、述べます。

##### 1. よさ 繰り返し学習できること など

先生方のメールのやりとりが学習意欲をたかめている

##### 2. 難しさ

現在 楠の木学園に通っているのでダブルスクール  
計画的に学習しないとリズムが、くずれやすい

##### 3. 保護者の関わり

2を補う意味で

☆アットマーク明蓬館の先生方とティームティーチングのつもりで家庭での学習  
をすすめる必要がある

☆学習日程やレポート、成果物等、計画的に学習を促していく必要がある。

#### ⑤子どもはどうしたら学ぶことを実感できるか

それでは、子どもはどうしたら学習を通して自分を高めていけるのでしょうか。

以下、成田先生のブログから、引用させていただきました。

##### J.ケラーの ARCS モデル

成田教授のワールドレジャーニュースから 2007年03月15日

学校の雰囲気と子どもの学習への意欲について考えさせられることがあります。J.ケラーという学習心理学の専門家がいます。この人は、「子どもの勉強したい」というやる気を引き起こすには4つのことが大事だといっています。それを紹介しましょう。

やる気を起こす第1のことは、「ここは楽しそうな所だな、」という子どもが抱く第一印象です。学校の中が明るい、ということの大事さがわかります。ケラーはこれを「子どもの注目」(**Attention**)と呼んでいます。

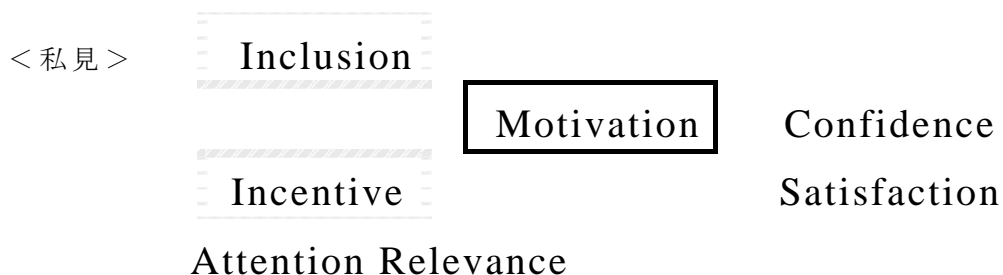
第2は、「勉強することが大事なんだ、」ということを確認させることです。なぜ学ぶのかを子ども少しでも理解させることの重要性です。学びに子どもなりに価値を見いだすことが必要ですね。このことを「学ぶことの意義」(**Relevance**)と呼んでいます。

第3は、「自分はできるんだ、やれるんだ、」という自信をもたせることです。自信はすべてのことに影響します。子どもは特にそうです。このことを「自己効力感」(**Confidence**)とでもいっておきます。

最後の第4のことですが、それは「学んで良かった、役に立った」という晴れやかな気分です。これを「自己充足感」(**Satisfaction**)とでもいえることです。満足感人は人を爽快にさせてくれます。

ケラーは、以上のような大事なことの頭文字をとって、子どものやる気を起こすためのARCSモデルと名付けました。子どもは、学校でこの4つの体験ができれば、自然と一生

懸命に学ぶやる気ができるのだ、とっています。



私見について、述べます。

1. 「ここは楽しそうな所だな、」学校の中が明るい、ケラーはこれを「子どもの注目」(**Attention**)と呼び、「勉強することが大事なんだ」「学ぶことの意義」を(**Relevance**)と呼んでいます。この2つは、子どもへの学習の励みとなるものです。**Incentive**
2. 「自分はできるんだ、やれるんだ、」「自己効力感」(**Confidence**)、「学んで良かった、役に立った」「自己充足感」(**Satisfaction**)のつながりはケラーと同じですが、間に**Motivation** (学習の原動力)を入れます。

**Incentive** (学習する励み)が**Motivation** (学習の原動力)となり自信につながり、自己充足感が生まれ爽快な気持ちになると理解しています。

3. 指導者から見ると**Inclusion** (みな同じように扱う)という、見方になりがちですが、生徒から見ると**Incentive** (学習する励みー学習の場も含めて)から始まり、**Motivation**を高めて自信を深め自分の成し遂げた成果や存在に満足するのです。また、指導者から見れば、そのことが**Inclusion** (みんなと同じで、分け隔てのない平等)になるのだと理解しています。

#### ⑥アットマーク明蓬館高校の個別指導計画づくりツール e-iep

さて、明蓬館高校の e-iep の概要ですが、以下の様に運営される予定です。間もなくの実施になります。楽しみにしています。

1. イン트라ネット利用 (明蓬館高校内での利用)
2. 保護者からの情報提供や教師とのコミュニケーション
3. 保護者と教師は、携帯メールを使い、学校が使っているノートベースの連絡帳のように毎日の学習や行動上の様子を報告しあい、それが e-iep の連絡帳に自動的に記載される。
4. e-iep の連絡帳機能は保護者の携帯電話から e-iep に登録している担任や特別支援コーディネーターにメッセージを送ることができる。担任がいないときでも連絡が滞らない。
5. セキュリティー
  - ・連絡帳機能による通信は全て e-iep サーバー上に記録されて、保護者の携帯電話に情報が残らない。(万一の紛失時にも安心)

・ e-iep サーバーは保護者の携帯電話の製造番号を記録し、ログイン名＋パスワード＋製造番号の三つで認証をする。他の携帯電話からアクセスをすることはできない。

### 3. 課題（一般論として）

#### ①HCTS（Human Communication Technology Solution）が基本 ※1

いかに情報機器が発達しても、基本はローテクです。肝心の所は、人と人との関係です。じっくりと信頼関係を築いて、ハイテクの言葉に肉付けが感じられることが必要です。

直接、顔を合わせての人間関係が整った上で、個に応じた個別指導の作成と継続性が必要だと考える。血の通った暖かい関係が必要。

※1 教科、生活、将来を見据えて（できるだけ生徒・保護者の希望に合う形で）

#### ②ICTS（Information Communication Technology Solution）

情報機器の高度化が加速し、今や家族のやりとりも場合によっては、メールのみとなる場合さえある。情報処理技術としては、すばらしいが、コミュニケーションの道具としては、万能ではないと考えるべきである。その時々を情報を切り取ったものなのでその背景を描写しきれていないのです。

以下に、ICTS の利点と注意点を述べます。

情報機器を通しての指導は、効率的で記録性が高い。しかし、絶えずアクセスしその時々を記録を記入し、リアルタイムでの状況を把握する必要がある。

道具としての活用度は大変高いが、それが全てと考えるべきではない。

最終的には①にもどる必要があると考える。

世の中は人と人との関わりだから！

#### ③満足度（一般的に）

どんなことにも、効率が求められる世の中です。遠回りも長い目で見ると悪くはないのです。しかし、成長期の生徒達は吸収力が高く、体力もあるこの時期に集中して学ぶことが必要です。このことは、きっと生徒の明るい未来につながると信じています。

そのためには、以下のことが必要と考えます。

- ・ 暖かさのある助言が有効である。（教師・保護者）
- ・ 要求ばかりしていても何も生まれない。（保護者）
- ・ 努力といっても的はずれでは、効率的でない。（生徒）
- ・ 学校・教育機関・保護者いずれも生徒の未来を信じて気持ちよく力を合わせて指導にあたる必要がある。

幸福 = 現実 - 期待値

ある記事で読みましたが、デンマーク人は世界で最も幸福を感じる人の割合が多いそうです。恵まれた福祉とそのことに安住し、けたはずれな要求をしなければよいという世論調査からだそうです。

私たちは、現実を学校・教育機関・保護者で協力して高め、生徒への期待も高め心地よいさわやかな緊張感のもとに、幸福を目指せば良いのかなと思っています。

#### ④正直のところ

しかし、現実を見ると、教育活動もビジネス活動も今の日本では、多忙と厳しさの最中にあります。わずかな、ゆとりを上手に使うことが、理想に近づく早道なのかも知れません。いずれ社会人となる日のために！

以下に現状を述べます。

- ・先生方・・・日々の教育活動は多忙をきわめている。  
さらに情報機器への対応となる。保護者を意識して24時間体制  
全員が情報機器の達人？
- ・保護者・・・日々全力で我が子の活動を理解し、支援できるか  
情報機器への対応、活動の記録が常時できるか  
全員が情報機器の達人か？

R.T.